

## 1 単元名

「伝統文化を楽しむ」～兼好法師に倣って「友とするに悪き者」と「善き友」を考えよう～

教材名「枕草子・徒然草」(東京書籍2年)

補助教材「随筆の味わい」(教育出版2年)、「枕草子」(光村図書)

## 2 単元の目標

- (1) 古文に表れている筆者のものの見方や考え方について自分の考えをもととする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 古文に表れている作者のものの見方や考え方を理解し、知識や経験と関連付けて自分の考えをまとめることができる。  
(読むこと)
- (3) 古典の世界に表れたものの見方や考え方に触れ、現代との共通点や相違点に気付くことができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 3 単元について

## (1) 生徒観

第1学年では「蓬萊の玉の枝」を通して古典作品に触れ、文語のきまりや歴史的仮名遣いなどの基本的な知識を習得した。リズムを味わいながら音読などを行ったが、ものの見方や考え方については、現代と古典の世界で大きな違いがあると考えている生徒が多い。そこで、第2学年では、古文に表れたものの見方や考え方などに触れ、古典の世界に親しませることが重要であると考えている。本単元で清少納言や兼好法師の作品に触れ、現代に生きる自分たちとも共通する考えが多くあることを読み取り、古典を身近なものとして感じられるようにしたい。

## (2) 言語活動とその特徴

本単元では、『徒然草』第117段「友とするに悪き者」を読み、兼好法師の表現に倣い古語を使って自分なりの「友とするに悪き者」と「善き友」を考えることを言語活動として位置付けた。現代語で「友達にしたい人」と「友達にしたくない人」を考え、それに当てはまる古語を多様な方法で調べることで、多くの古語に親しむことができる。また、兼好法師に倣った形で表すことで、「文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと」(C 読むことエ)と「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること」(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ))を実現することができると考え、この言語活動を位置付けた。

## (3) 教材観

『徒然草』の内容は、評論的なものから説話的なもの、回想録的なものなど多岐に渡り、仏教的な話や教訓、人間の心理や行動について書かれた話もある。しかし、全ての段の根底に作者の無常観が流れており、分裂した印象を与えない。その中から、生徒にとってより親しみやすいものとして第117段を選んだ。第117段に表れている「友とするに悪き者」と「善き友」は現代にも通じる部分がある。普段の人間関係や日常生活に目を向けながら自分なりに「悪き者」と「善き友」を考えることで、これまでの自分自身の生き方や在り方についても顧みることができると考える。また、「友達にしたい人」と「友達にしたくない人」という分かりやすいテーマで書くことで、抵抗なく古典の世界に入り込むことができるようにしたい。

## (4) 指導観

古典の世界に親しむために、清少納言や兼好法師のものの見方や考え方に触れ、現代と共通する部分があることを理解し、自分なりの「友とするに悪き者」と「善き友」を考える言語活動を取り入れる。兼好法師

に倣って古語を使うことで、多様な方法で古語を調べる必然性が生まれるであろう。また、出来上がった作品を交流する際にも、友人が使った古語を確認する必要があるため、新たな古語の習得もできると考える。第一次では、小学校の既習事項を基に、『枕草子』や『徒然草』の序段を音読し、作品のあらましや特徴を知り、古文のリズムに親しむ。第二次では、『枕草子』と『徒然草』を読み、それぞれのものの見方や考え方を理解する。第三次では、『徒然草』第117段を読み、兼好法師のものの見方や考え方を理解した上で自分の考えをもつ。更に、「友とするに悪き者」と「善き友」を古文で表し、出来上がった作品をグループで交流する。古語を調べる際には、古語類語辞典やインターネットの検索サイトを使う。また、調べた古語を集約し、「2年\*組古語一覧表」として生徒の調べた結果を形にして本単元で活用するとともに、継続的に活用することで今後の言語活動の充実も図っていきたい。

#### 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・古典に表れている筆者のものの見方や考え方について自分の考えをもとうとしている。	・文章に表れた筆者のものの見方や考え方について、知識や経験と関連付けて自分の考えをもっている。(C-エ)	・筆者のものの見方や考え方を想像し、現代との共通点や相違点に気付いている。((1)ア(イ))

#### 5 単元の指導計画（5時間扱い）

次	時	主な学習活動	主な評価規準・（評価方法）
一	1	○『枕草子』第一段と、『徒然草』序段を音読し、作品のあらましや特徴を知る。	[国語への関心・意欲・態度] ・古文のリズムを味わいながら音読し、筆者のものの見方や考え方を知り、それについて自分の考えをもとうとしている。 (観察・ノート)
二	2	○『枕草子』第125段を繰り返し音読し、清少納言のものの見方や考え方を捉える。	[言語についての知識・理解・技能] ・『枕草子』第125段を読み、筆者が「をかし」と感じているものを挙げている。 (発表・ワークシート)
	3	○『徒然草』第512段を繰り返し音読し、兼好法師のものの見方や考え方を捉える。	[言語についての知識・理解・技能] ・第512段を読み、法師の行動を踏まえて、筆者の考えを捉えている。 (発表・ワークシート)
三	4	○『徒然草』第117段を音読し、原文と現代語訳を読み、兼好法師のものの見方や考え方を想像する。 ○兼好法師に倣って自分なりの「友とするに悪き者」と「善き友」を考え、それに見合った古語を調べる。	[言語についての知識・理解・技能] ・兼好法師の考える「友とするに悪き者」と「善き友」の人物像を想像し、その理由をペアで説明し合っている。 (発表・ワークシート)  [読む能力] ・自分なりの「友とするに悪き者」と「善き友」を考え、自分の考えに見合った古語を調べている。(観察・ワークシート)

⑤ 本 時	<p>○古語を調べて作品を完成させる。</p> <p>○作った作品をグループ内で発表し、兼好法師と自分たちの作品を比べ、感想をもつ。</p>	<p>[読む能力]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えに見合った古語を調べ、作品を完成させている。(観察・ワークシート)</li> </ul> <p>[言語についての知識・理解・技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兼好法師と自分たちの作品を読み比べ、共通点や相違点に気づき、古典をより身近なものに感じている。(観察・発表)</li> </ul>
-------------	--	--

6 本時の目標

(1) 目標

兼好法師に倣って自分なりの「友とするに悪き者」と「善き友」を考えることによって、古人のものの見方や考え方に触れ、現代との共通点や相違点に気付くことができる。

(2) 準備・資料

『徒然草』第117段、ワークシート、古語類語辞典、ノートパソコン、プロジェクター、スクリーン

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>兼好法師に倣って「友とするに悪き者」と「善き友」を考えよう。</p> </div> <p>2 前時の学習を確認する。</p> <p>(1) 「友とするに悪き者」を音読する。</p> <p>(2) 兼好法師が「友とするに悪き者」と「善き友」として示した人物像を確認する。</p> <p>3 前時に考えた「友とするに悪き者」と「善き友」にふさわしい古語を調べ、作品を完成させる。</p> <p>【悪き者】面白くない人 →あぢきなし人 子どもっぽい人→いわけなし人 など</p> <p>【善き友】明るい人 →あかし人 おもしろい人 →うむがしな人 など</p> <p>4 作品を発表し、互いの考えを比べ合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>友とするに悪き者、三つあり。 一つには、(           )、二つには、(           )、 三つには、(           )。</p> <p>善き友三つあり。 一つには、(           )、二つには、(           )、 三つには、(           )。</p> </div> <p>5 自分たちで作った作品と兼好法師の第117</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兼好法師の画像と序段をスクリーンに映すことで、書く対象を明確にする。</li> <li>・本時の見通しをもたせるために、最終的に兼好法師と自分たちの共通点と相違点を見付けることを伝える。</li> <li>・それぞれが調べた古語を事前に集約し、「2年*組古語一覧表」を配付する。</li> <li>・音読により、古文のリズムを味わえるようにする。</li> <li>・兼好法師の考えを理解した上で自分の考えを古語で表せるようにするために、「友とするに悪き理由」と「友とするに善き理由」を再確認する。</li> <li>・「2年2組古語一覧表」を基に古語を調べ、できるだけ兼好法師の言い回しを模倣できるようにする。</li> <li>・なかなか古語を見付けられない生徒には、一つの古語に多義的に意味があることを助言する。</li> <li>・古語に注目して感想をもつよう伝えることによって、現代語の意味だけに目が向かないよう配慮する。</li> <li>・他の人の考えと根拠を聞くことで、自分の考えと比較したり、古文の言い回しと文体に気付かせたりする。</li> <li>・発表の型を掲示することで、全員がスムーズに発表できるようにする。 (型) ○○○とは現代語では△△△です。友達にしたくない(したい)理由は◇◇◇だからです。</li> <li>・兼好法師の考え方に触れ、自分たちの見方と比較させ</li> </ul>

段を読み比べ、共通点や相違点を見付ける。

【共通点】「虚言(そらごと)する人」や「欲深き人」は信用されないので、現代においても「友とするに悪き者」である。

【相違点】「物くるる友」というのは、自立を妨げることになるので、現代では必ずしも「善き友」とは言えない。

6 本時の学習を振り返る。

(例) 現代にも通じるものがあり、「虚言する者」は、古典の世界でも「友とするに悪き者」だということが分かった。また、「嘘をつく」は古語では「そらごと」や「いつはる」と表すことが分かった。

(例) 「病なく身強き人」は現代では「善き友」に当てはまると思うので、古典の世界との違いをもっと調べたいと思った。

ることで、古典は古いものではなく、身近なものとして感じられるようにしたい。

(評) [言語についての知識・理解・技能]

兼好法師の第117段と自分や他の人の作品を読み比べ、ものの見方や考え方について共通点と相違点を考えている。(兼好法師の考えと自分の考えがまとめられているワークシートの記述を基に評価する。)

-----  
努力を要する状況と判断した生徒への手立て

・「善き友」のみに焦点を絞り、自分の考える「友だちになりたい人」と、兼好法師の考える「善き友」はどう違うかを考えさせる。

・「兼好法師のものの見方や考え方は、」という文に続けて振り返りをするので、めあてに基づく評価となるように留意する。